

## インドの巡礼

インドの人々は、「学習期」「家住期」「森林期」「巡礼期」という四つの過程を順調にたどることを人生最高の幸福としています。

つまり、こつこつと勉強して豊富な知識を習得する青少年のころが「学習期」です。せっせと働いて家族を養う時期が「家住期」です。そして社会の第一線をしりぞいて後進に席をゆずり、ゆうゆう自適の生活を楽しむ壮年期が「森林期」です。そして、やがて迎える死へのそなえとして信仰を深め、巡礼の旅に出る老後が「巡礼期」です。このような人生の送り方がインドでは理想とされています。ここでとくに注目したいことは、「人生の最後は巡礼の旅に出て果てることを最大の喜びとする」という点です。

巡礼の目的地はベナレスです。ベナレスに行けば神々が住まえるヒマラヤから、とうとうと流れてくる神聖なるガンジス河に全身を浸<sup>ひた</sup>して沐浴をすることができるからです。このベナレスには「死者の家」があり、ここで家族に看とられて臨終ができれば、これまでの人生を最良に完成することになります。そのためにベナレスを目指す巡礼者が全国から引きも切らずに訪れるわけです。

巡礼者のなかには五体投地<sup>ごたいとうち</sup>をしながら数ヶ月をかけてベナレスへ向かう人もあります。五体投地という礼拝は、合掌した姿で全身を地面に投げ出して祈りをささげ、ふたたび立ちあがって合掌し、また五体投地をします。身長分だけ前進してゆくのです。気の遠くなるような時間をかけてベナレスを目指します。

五体投地は地面に全身をこすりつけますから、手足の関節には木製の保護具がつけられます。しかしそれでも何万回となく五体投地をくりかえしますから、皮膚がはげたり、巡礼ダコができたりします。日本人の目からすればひどく大袈裟な礼拝に見えますが、これ以上に丁寧な礼拝スタイルが他にあるでしょうか。子ども連れの巡礼もあります。このような巡礼者に出会いますと、いい知れぬ感動で胸がしめつけられてしまいます。インドでは、聖地や寺院のまわりで五体投地している姿を日常的に見ることができます。